

即応予備自衛官雇用企業主等訓練研修に参加して

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 松田辰雄1等海佐）は、8月6日（木）、7日（金）の間、東富士演習場及び駒門駐屯地で実施された「第31普通科連隊が計画する即応予備自衛官雇用企業主等訓練研修」に企業主等3名を招へいた。

研修では、研修概要及び保全・安全教育を受けた後、演習場へ移動。マイクロバスで揺られること15分。部隊が野戦訓練（防御訓練掩体構築）を展開している2箇所（ATM・89式小銃用の陣地）を見学し、陣地毎に第3中隊長及び第4中隊長等から、それぞれ任務等概要の説明を受けた。中でも、任務に必要な掩体を構築するため、早朝から昼夜を問わず作業を行わなければならないと聞き、企業主等から「地味な作業でハードな訓練だ。この訓練が終わったら、少しでも休養させてあげたい。」などの感想が聞かれた。この他、隊員食堂での「部隊喫食」、「駐屯地資料館見学」、「74式戦車試乗」を体験し、参加した企業主等は満足した表情で本研修を終えた。

神奈川地本では、今後も多くの即自雇用企業に対して研修を案内し、防衛基盤の拡充及び即自制度への一層の協力及び理解を得られるよう働きかけたい。



掩体構築研修の様子

県内初！公安系3業種による合同採用ガイダンスを開催

神奈川地方協力本部横浜出張所（所長 赤塚3陸佐）は、8月7日（金）、神奈川県警察本部及び横浜市消防局と共に、神奈川県内で初めての公安系3業種による合同採用ガイダンスを開催した。

本説明会は、少子化や景気の影響で、3業種共に非常に厳しい募集環境の中で、共同開催することによる相乗効果を期待し、本出張所の発案の下、神奈川県警と横浜市消防局の賛同を得て開催に至ったものである。

当日は、約120人の参加者が来場し、各業種のブースにおいて業務内容や経験談等の説明を真剣に聞いていた。参加者からは「それぞれの仕事のやり甲斐が聞けて良かった」、「私も公務員になりたい」と思った、「制服試着により、業務のイメージを膨らますことができた」等、多くの声を聞くことができた。また、神奈川県警や横浜市消防局の担当者からも、他業種を中心に考えていた参加者に対しても職種の魅力を伝えることができ、「非常に有意義な説明会になった」との感想も聞かれた。

横浜出張所は、「今後も、警察および消防と連携し、今回の教訓等を活かしたより良い合同ガイダンスにしていきたい」としている。



本音のガールズトークなう♪



制服の試着をし、未来を夢見る参加者



全般説明に耳を傾ける参加者